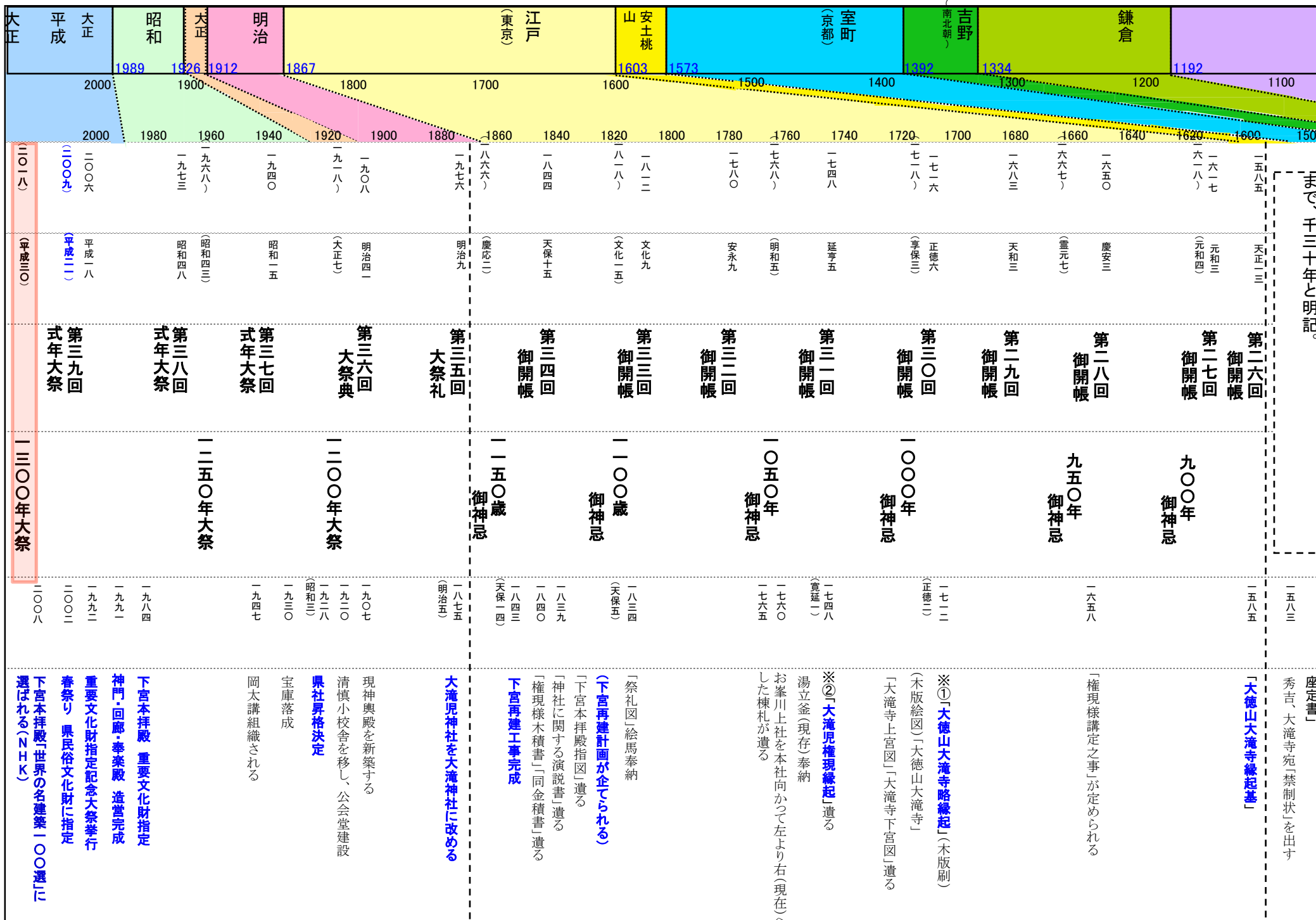




まで、千三十年と明記。

座定書

秀吉、大滝寺宛「禁制状」を出す

「大徳山大滝寺縁起基」

九〇〇年
御神忌

九五〇年
御神忌

一〇〇〇年
御神忌

一〇五〇年
御神忌

一一〇〇歳
御神忌

一一五〇歳
御神忌

一二〇〇年大祭

一二五〇年大祭

一三〇〇年大祭

「権現様講定之事」が定められる

※①「大徳山大滝寺略縁起」(木版刷)

(木版絵図)「大徳山大滝寺」

「大滝寺上宮図」「大滝寺下宮図」遺る

※②「大滝児権現縁起」遺る

湯立釜(現存)奉納

お峯川上社を本社向かつて左より右(現在)へした棟札が遺る

(下宮再建計画が企てられる)

「下宮本拝殿指図」遺る

「神社に関する演説書」遺る

「権現様木積書」「同金積書」遺る

下宮再建工事完成

大滝児神社を大滝神社に改める

現神輿殿を新築する

清慎小校舎を移し、公会堂建設

県社昇格決定

宝庫落成

岡太講組織される

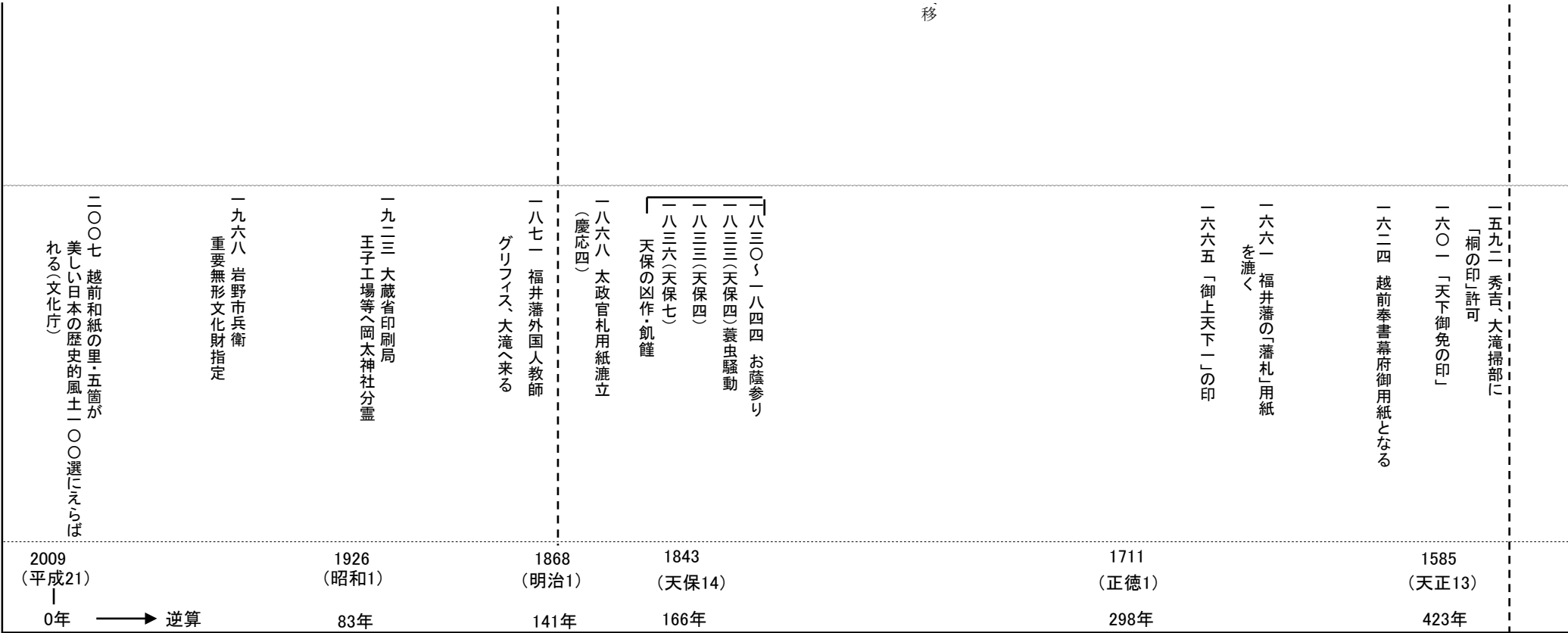
下宮本拝殿 重要文化財指定

神門・回廊・奉斎殿 造営完成

重要文化財指定記念大祭挙行

春祭り 県民俗文化財に指定

下宮本拝殿「世界の名建築100選」に
選ばれる(NHK)



紙祖神岡太神社・大滝神社 歴史略年表

—御開帳の歴史をたどって—

時代	年代	西暦	年号	御開帳	中開帳	年代	神社の主な歴史
飛鳥	五〇〇頃 同右						川上御前より、紙漉きの技を授けられる 岡太神社創建 大滝神社創建 (祭神 国常立尊・伊弉諾尊)
平城京 (奈良)	七一九 (養老三)						泰澄が神仏習合による大徳山大滝寺を建立 (保)
平安 (京都)	九二六						「延喜式神名帳」に岡太神社の社名
	一三〇一 一五七四 一五七五 (天正三) 同年						得江頼員らにより、大滝城落城 甲斐政綿が大滝寺宛の神領寄進状 信長、一向一揆攻略のため、越前攻略 滝川一益により、大滝寺焼失 府中三人衆(前田利家、佐々成政、不破光

「神と紙 その郷」より

治よりの「大滝神郷紙

				その他の関連した歴史
立（写経用紙の確				
一〇五 中国（後漢）の蔡倫が紙を漉く				
六一〇 僧曇徴、高麗より製紙法を伝える				
七三〇、七三二、七四一、正倉院に越前の紙				
一二二六 越前古奉書が残る				
1575 （天正3）	719 （養老3）	507 （継体1）	500 （武烈2）	西逆 暦算
433年	1290年	1502年	1509年	